

# 安達圏域障がい福祉事業所合同職員研修会

特定非営利活動法人 スケッチブック  
〒969-1138 福島県本宮市本宮鳴瀬 53 番地の 3

## 助成事業の概要

体のメカニズムを正しく知ることにより「介護技術の理論的習得」、「拘縮予防に関する知識獲得」に重点を置き、更には、実践的な研修として「職員同士による臨床体験」及び「実際の現場における実地研修」も実施していく。単に介護技術の向上を目指すものでなく、正しい体の仕組みを学ぶことで、利用者の方の残存機能の維持向上や職員の介護負担の軽減を目指す。

**第1回** 平成25年7月20日（土） 10時～16時

「安楽で拘縮予防につながる姿勢について」

**第2回** 平成25年10月12日（土） 10時～16時

「介護技術の実際」

**第3回** 平成26年1月13日（月） 10時～16時

「奇跡のリンゴ（DVD）から専門職としての姿勢を学ぶ」

**第4回** 平成26年2月 6日（木） 10時～16時

「実際の現場での実技体験」

講義では、拘縮について重点に学び、姿勢の意義や利用者の方及びスタッフに与える影響について拘縮との連動性について学ぶことが出来ました。

実技講習では、午前の講義内容を実践することで、カラダのメカニズムや関節可動や拘縮の変動について体感することが出来ました。

受講者のアンケートからも、姿勢の大切さについて一番印象に残っており、正しいポジショニングを実践することで、カラダの捻じれや隙間が解消し、筋肉の緩みや負の姿勢から生じる負担軽減を体感できたことが一番の学びを感じた研修会となりました。

今まで福祉現場では車椅子利用の方に対し、車椅子に乗っていることでの負担軽減を図るため、定時において横になる時間やマッサージの導入等を各所で実践していました。

しかし、今回の研修会を通じて私たちは今まで利用者の方々の苦痛や負担の軽減を図るために活動や支援を行っていましたが、それは、逆に負担を強いていたことを体験を通じ痛感しました。

人対人、相手を想う気持ちも大切ではありますが、改めて「支援の根拠」の大切さを学びました。根拠ある支援をするためにも、利用者の方々の安心安全を確保するためにも、このような研修会を重ねていき、法人単体での取り組みでなく、改めて広域での取り組みが支援者としての視野の拡充等に繋がることを感じる研修会でした。

## 【第2回】

今回は、テーマ「介護技術の実際」と設定し、

## 事業の成果

### 【第1回】

今回は、テーマ「安楽で拘縮予防につながる姿勢について」と設定し、午前の部は座学、午後の部は実技講習を実施。（参加者48名）

午前の部は座学、午後の部は実技講習を実施。（参加者56名）

講義では、移乗について重点に学び、移乗時のカラダの位置や動き、介助する上での留意点等について学ぶことが出来ました。

実技講習では、午前の講義内容を実践することで、介護実施時の留意点について体感をするとともに、介護時における介護者の姿勢について再確認でき、介護負担の原因や解決方法について体感することができました。

参加者からも、単にベッドから車椅子への移乗だけでなく、車椅子から椅子、車内でのカラダの移動等についても体験することもでき、会場から質問のあがった排泄時における移乗についても助言を頂き有意義な時間となりました。

介護者の負担では、何気ない日常の動作の中に腰痛に繋がる実態について確認でき、実践の中で参加者は皆、衝撃を受けた印象でした。

日頃の業務負担は、一概に業務多重によるものばかりでなく、日常動作における日々の疲労の積み重ねが引き金となっていることに気付かされ、前回とは違う視点での確認ができ有益な時間となりました。参加者も前回より増加しており、参加者からも前回出た方が好評だったという話を聞いたというご意見も頂くことが出来ました。

回を重ねるごとに日々の質の向上の繋がることを感じる研修の機会となっております。

### 【第3回】

今回は、テーマを「奇跡のリンゴ（DVD）から専門職としての姿勢を学ぶ」と設定し、午前中のDVD鑑賞では、①当事者（主人公）の視点 ②パートナー（奥様）の視点 ③周囲（人や団体）の視点の3つをお題として鑑賞をする。

午後からは、グループワークを通じてDVDをみた感想、DVDの内容を日々の自分たちに置き換えて見えてきた課題や感想、課題として挙げら

れた内容に対する具体的な改善方法の模索についてグループワークを実施し、各グループ発表を実施。（参加者は46名）

グループワークの経験不足からかスタート時は互いに遠慮等をしている場面が多く見受けられたが、各グループのファシリテーターを介し、途中からは各自意見や悩みを活発に意見交換するようになってきており、日ごろ接することのない事業所間の交流にも繋がったと思います。

今回の研修会で学んだ点として参加者の方から多く聞かれたのが、「仕事に対する意識」、「傍観者としてではなくサポーターとして」という点について改めて自分たちが専門職、支援者という立場でありながら意識の低下や仕事に対する目的、目標についても明確なものがない中、各自の理想や思い込みにより業務にあたっている自分達に気づかされたという意見が出されていました。

この点については、各組織の在り方等があるため、施設長会議等の場で今回の研修会にて聞かれたスタッフの思いや意見について、管理者の視点からの検証等を実施していきたいと思えます。

### 【第4回】

今回は、テーマ「実践の現場での実技体験」と設定し、実際に生活介護事業所を会場とし、利用されている方々への介護技術の実践、また在宅支援を受けている方のご協力を頂き、在宅支援時での介護技術の実践を実施。

内容としては、今まで学んだ内容を中心に実施。安楽な姿勢や硬縮予防については、利用者の方の身体面における変化が即座に見えるなど、改めて日々の支援の課題が浮き彫りとなりました。実際に介助を受けた利用者の方からも質問や体への負担が軽減したというご意見も挙げられました。

在宅支援での場面では、頸椎損傷の方の介助場面でしたが、本来受けるべきリハビリを受けていない実態も浮かび上がり、今までのケアサポート

会議の在り方や今後の方針の修正等課題を発見することができました。

今まで、支援者として、必要とされる介護技術とは、と勉強会を実施してきましたが、参加者の方々からも有意義な研修の機会であり、素直に自分たちの日々の状態が利用者の皆様に対し、相手を想ったの取り組みが、逆に負担を負わせていた現状等についても感じる事ができた研修会となりました。

日々の介護支援は、根拠の上に成り立ち、個々の特性や状態を正しくアセスメントし、見直しを実施、PDCA のサイクルの大切さも改めて学ぶ機会となりました。

今までは支援者のみの研修会でしたが、今回は利用者の方も参加したこともあり、今後の実施の要望も多数挙がったとても有意義な研修会となりました。

## ■ 成果の広報、公表

今回の研修課の成果としては、当法人の 26 年度広報誌やブログ、フェイスブックページでの公表や研修時の様子を DVD に収めたため、各事業所を利用している方やご家族への参考資料として提供を実施。

また、障がい分野だけでなく安達圏域において福祉サービスを提供しています関連事業所等についても、安達圏域自立支援協議会を通じて情報の発信を実施していきます。当法人も所属している生活支援部会より本会議にて情報提供を実施していきます。

## ■ 今後の展開

各研修会とも参加者の方々から好評なご意見を頂いております。

今回の研修会のみでの習得は困難であるため、

規模は小さくなると思いますが、引き続き勉強会の実施を企画していきたいと思っております。

また、最後の研修会では障がいを抱える当事者の方々からも、また参加したい等のご意見も頂きました。今まではスタッフを中心とした研修会が中心でしたが、今後は、障がいを抱える当事者の方も参加できる内容での研修会の実施を企画していきたいと思っております。

この度のご支援・ご協力本当にありがとうございました。

今後ともよろしく願いいたします。